

# 学校法人獨協学園の平成28年度決算と29年度予算について

## 平成28年度事業報告概要と決算について

### (1) 事業報告概要

獨協学園は、人文科学・社会科学・自然科学の分野において、それぞれ特化した専門化した領域を有する3大学（獨協大学、獨協医科大学—附属3病院と2看護専門学校を有している一、姫路獨協大学）、2中学・高等学校（獨協中学・高等学校、獨協埼玉中学高等学校）から構成される総合的な学園です。

また、「大学は、学問を通じての人間形成の場である（天野貞祐獨協大学初代学長）」という共通の教育理念を持ち、「各校の自主性、独自性を尊重しつつ、一つの法人として整合性をもって経営する」との経営方針のもと、各校が独自に運営されています。

少子化等による18歳人口の減少、国際情勢などの影響により、私立大学等を取り巻く経営環境は年々厳しさを増しています。当学園としては、教育・研究・医療を通じて地域社会に貢献していく中で、社会の変化に対応し、より強固な経済基盤を確立することで、学校間競争に勝ち残っていく必要があります。

そこで、当学園では、学園及び各校が連携し、中期計画としての「獨協学園基本計画」を平成10年より策定し、2年ごとに見直しを実施しております。平成28年8月には、「獨協学園第10次基本計画（2016年度）」として平成34年度（2022年度）までの計画を策定し、9月の理事会・評議員会において承認されました。

各学校等においては、教育・研究・医療の充実を更に推進し、平成28年度は、主に次のような事業を実施しました。

獨協大学は、平成27年に創立50周年を迎え、これからの50年（NEXT50）に向けて大きく動き出した1年でした。中でも、創立50周年記念館（西棟）の竣工、大学正面の松原団地記念公園西側にある約1.17haの土地取得、法科大学院の廃止など内外的に大きな変化の年となりました。教学面では、少人数教育の科目や領域の特性に応じて充実を図り、外国語教育では引き続き本学外国語教育の基幹の一つである全カリ英語プログラム（EGAP）の支援を行いました。創立50周年記念館（西棟）には、アクティブラーニング教室やラーニングスクエアを配置し、主体的な学習効果を上げるべく環境を整備しました。また、奨学支援については、奨学基金の積み増しを行うとともに、奨学寄付金募集事業にも着手しました。

獨協医科大学では、教職員・学生環境整備を目的とし、ドミトリーさくら地下1階の改修工事を行い、大学病院においては、震災等の災害時も病院機能を維持するため、5期目となる耐震補強工事を行いました。また、診療業務強化を図るため、本館改修工事を行いました。越谷病院では、昨年度から引き続き新棟建設工事を行いました。また、特殊外来機能の拡張のため、瓦曽根外来棟（みらい棟）新築工事を行いました。日光医療センターでは、透析患者の増加に対応する体制を整えるため、透析棟の建設工事を行いました。

姫路獨協大学は、医療現場での人材不足に対応し、高齢化への対処や在宅医療の推進などの人材育成を目的として、3つ目の医療系学部となる看護学部看護学科を開設しました。また、従来の学部組織よりも柔軟な枠組みと学生個人の自主性や興味を支援する学びを実現するために、従来の文系三学部（外国語、法律、経済の各学部）を統合し、新たに人間社会学群を開設し、3つの学類（国際言語文化学類、現代法律学類、産業経営学類）を設けました。管理・運営関係では、広報活動により本学の社会的貢献をアピールしブランド力を高め、さらに受験生や保護者への認知度を高めることに努めました。

獨協中学・高等学校は、優れた教育実践に向けたアセスメント制度や生徒による授業評価及び授業研究を一層充実させることで深化を図りました。また、新たにICT教育の研究会を立ち上げ今後の導入の布石としています。大学生によるチューター制度は、積極的に生徒の学習面にも関わる仕組みができています。

獨協埼玉中学高等学校は、国際理解教育の推進、自己点検評価とFD活動の推進、外国語教育の充実、自習環境の構築及び環境教育の充実等により教育内容の充実及び受験環境の整備に向けた改革を更に推進し、また併設大学への進学実績と他大学への進学実績を併せ持つ幅広い進路選択が可能な学校として、併設大学との連携強化等に取り組みました。

学園本部は、理事会、評議員会、学園運営会議及び基本計画策定委員会等諸会議の運営、学園内諸規則の見直しや整備等を行うとともに、学園経営の指針となる獨協学園第10次基本計画（2016年度）を策定し9月に承認を得ました。平成27年度に完成した獨協学園史資料センターの新収蔵庫の活用も開始しました。

### (2) 事業活動収支（表1、図表1）

事業活動収入の合計は、予算1,023億16百万円に対し、決算では1,014億21百万円となり8億95百万円の減少となりました。主な要因は獨協医科大学病院でのノロウイルス感染発生等の影響により、医療収入が9億24百万円予算を下回ったことによるものです。

事業活動支出の合計は、予算1,020億40百万円に対し、決算では1,013億5百万円となり7億35百万円の減少となりました。主な要因は人件費、教員研究経費等の予算比減少によるものです。

基本金組入前当年度収支差額は1億16百万円となり、予算2億76百万円を1億60百万円下回りました。基本金組入前当年度収支差額の事業活動収入に対する割合は0.1%となりました。

### (3) 資金収支（表2）

当年度収入合計は、予算対比で学生生徒等納付金収入、寄付金収入等が予算を上回ったことから、合計1,317億24百万円となり予算より12億9百万円の増加となりました。

当年度支出合計は、人件費、管理経費等が増加し、教育研究経費、施設・設備関係支出等が予算より減少しましたが、合計1,322億33百万円となり予算に比べ12億95百万円の増加となりました。

翌年度繰越支払資金は190億95百万円となり、予算に比べ68百万円下回りました。

## 平成29年度事業計画概要と予算について

### (1) 事業計画概要

平成29年度は獨協学園第10次基本計画（2016年度）の初年度です。各校の計画に沿った運営と各事業の着実な進捗に留意してまいります。

平成29年度の各校別の主な事業は以下のとおりです。

獨協大学は、新教室棟等の創立50周年記念館（西館）周辺のインフラ整備としてのキャンパスランドスケープ計画を実施します。少人数教育、EGAP英語教育の推進等教学関係での一層の充実を図り、また、学内各所に設けられているラーニング・commonsの施設の活用を図りながら既存施設設備の検証を行い、適切な維持・管理と改修・更新を実施し、同時に地球温暖化防止に向けた環境対策を実施します。

獨協医科大学は、より効果的な教育体制を構築するため、医師・看護師・保健師国家試験対策支援経費、海外研修費、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン等教学面での充実、全国的な看護師不足の中、確保が困難な状況にある看護師募集の対策を進めてまいります。越谷病院の新棟建設等の大型事業が控えており、引き続き財政基盤の強化・安定を図り、既存施設の改修・更新を実施します。

姫路獨協大学は、新たに開設した「看護学部」及び「人間社会学群」の教育充実を図りながら、広報活動に重点を置いた入学生確保に努めてまいります。さらに、平成29年度の創立30周年記念式典や関連事業を企画し、実施してまいります。

獨協中学・高等学校は、主要方針にある魅力あふれる学校作りを継続して進めるため、引き続きアセスメント制度・授業評価・授業研究の充実と、海外研修での環境教育や語学力、コミュニケーション能力の育成に力を入れてまいります。施設設備面では、ICT環境の整備や照明のLED化等を計画しております。

獨協埼玉中学高等学校は、自ら考え、判断できる若者を育てるという基本方針に基づき、引き続き教育内容を充実させるため、国際理解教育の推進、外国語教育の充実とともに、中学棟壁面緑化やピオトープの整備等環境教育を継続して進めてまいります。施設設備面では、経年劣化に対応した空調設備等の更新及び楽器等の教育用備品・図書を購入を計画しております。

学園本部は、学園内諸規則の見直し及び新規規程の整備検討と学園各校への状況に応じた支援を引き続き実施いたします。また、教育活動の推進と地域貢献を目的とした姫路市医療系高等教育・研究機関設置計画について、兵庫県・姫路市と協議を進めてまいります。

### (2) 事業活動収支（表5、図表2）

事業活動収入合計は1,045億1百万円（平成28年度実績対比30億81百万円増加）となります。主な収入科目として、医療収入760億67百万円、学生生徒等納付金195億4百万円、経常費等補助金収入46億36百万円、寄付金収入13億77百万円を計上しております。基本金組入額は87億62百万円です。なお、事業活動収入合計に占める医療収入の割合は72.8%となります。

一方、事業活動支出合計は1,041億58百万円（平成28年度実績対比28億53百万円増加）となります。主な支出科目は、人件費449億95百万円、教育研究経費542億22百万円（うち医療経費310億77百万円）、管理経費は45億44百万円となります。

なお、基本金組入前当年度収支差額は3億44百万円を計上しています。

### (3) 資金収支（表6）

当年度収入合計は、平成28年度実績比11億31百万円減少の1,305億93百万円を見込んでいます。

当年度支出合計は、18億91百万円増の1,341億24百万円を見込んでいます。施設関係支出は、獨協医科大学越谷病院の新病棟建設等により、136億71百万円を計上しています。

また、設備関係支出は、教育研究用機器備品を中心とした教育環境の整備等により、87億29百万円を見込んでいます。